

★今月の星もよう★

9月の宵の頃、天頂付近の高い所では夏の三大角が輝いていますが、低い所では、夏の代表的な星座のさそり座やいて座が南西の空に移り、やぎ座やみずがめ座、みなみのうお座など秋の星座が南東の空に昇ってきます。

ギリシャ神話では、やぎ座は上半身がヤギで下半身が魚の姿をした牧神パーンの姿だとされ、みずがめ座は、大神ゼウスの酒を注ぐガニメデスの姿と言われています。みずがめ座のすぐそばの、南の低い空にポツンと輝く明るい星は、秋の星空唯一の1等星フォーマルハウトです。フォーマルハウトはみなみのうお座のα星で、「魚の口」という意味を持ちます。それより東の少し高い所には0.6等の明るい土星が輝いています。



★月食のしくみ★

9月8日に、日本全国で皆既月食が見られます。「月食」とは月が地球の影に隠れる現象で、「皆既」がつくと月が全て隠れる現象を指します。では、月食とはどのような仕組みで起こるのでしょうか。

地球や月は太陽の光を反射して輝きますが、地球が太陽に照らされると、宇宙空間には太陽の反対側に地球の影ができます。満月の時に月がこの影の中を通り、月が欠けて暗くなったように見えるのが「月食」です。しかし、月の公転軌道は地球の公転軌道に対して5度傾いており、満月は地球の影より上下にずれたところを通ることが多いため、満月の時に必ず月食が起きるわけではありません。今回は、太陽-地球-月が一直線に並ぶので月食となります。なお、地球の影には、太陽光がほぼ遮られた濃い影の「本影」とそれを取り囲む薄い影の「半影」があり、月が半影に入ること、月の一部が本影に入ること、月の全部が本影に入ること、太陽の光の中でも波長が長い赤い光は、地球の大気によって曲げられて(屈折して)月まで届きます。そのため、月食中の月は皆既食の際も、真っ暗にはならず、赤っぽい色になります。

今回の月食は8日の午前1時27分から部分食が、午前2時30分から皆既食が始まりますので、観察する際は7日の深夜から南西の方角を見てみてください。

★土星が見ごろ★

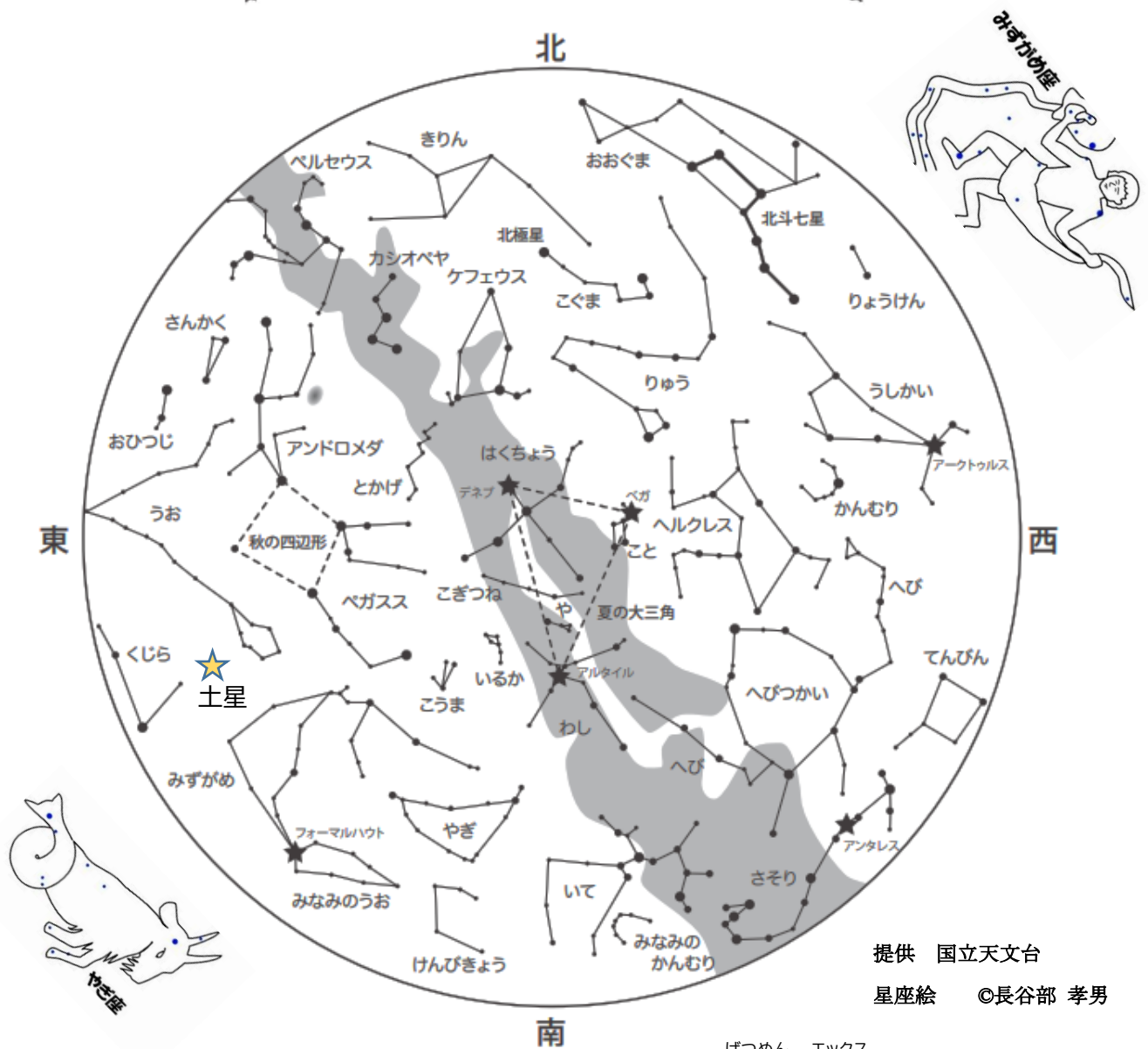
9月21日に土星が「衝」を迎えます。「衝」とは、太陽系の天体が地球から見て太陽と真反対に位置する瞬間のことです。このとき、土星は地球に最も近づくと0.6等と明るく見え、一晩中上がっています。

土星の環は約15年の周期で地球から見た傾きが大きくなったり小さくなったりしています。今年の11月下旬には環の傾きが小さくなり、地球から見て環が真横になって、環がたいへん薄いため見えなくなるという現象が起こります。この時期、環が細くなっていく土星の姿を観察してみましょう。

☆9月のプラネタリウムの内容については、別刷りの「投影案内」をご覧ください

☆プラネタリウムのお休み 9/1(月)、8(月)、16(火)、17(水)、22(月)、24(水)、29(月)

9月中旬21時頃の星空



★ 9月の主な天文現象 ★

8日(月) ● 満月 (コーンムーン)

皆既月食 皆既食開始2時30分

12日(金) 月とプレアデス星団が接近

14日(日) ● 下弦

21日(日) 土星が衝

22日(月) ● 新月

23日(火) 秋分の日

30日(火) ● 上弦

げつめん エックス
月面 X

29日18時20分頃、月面の^{ごろ}下図3つのクレーターが^か横から^{たいようこう}太陽光に照らされ、^{エックス}Xの文字が浮かび^あ上がっているように見える現象が起こります。天体望遠鏡を持っている方は観察してみましょう。

